

2023年1月18日(水)

老球の細道711号

Bリーグオールスター戦より県高校新人大会

会津バスケットボール協会 室井 富仁

見なければよかった。3年ぶりのBリーグオールスター戦だったので、今まで危惧していたゲーム様相が変わっているのではと思ったが、甘かった。あいかわらずディフェンスしない、走らない、無理しない、にやけながらの「仲良しこよし」のゲームが展開されていた。

オールスター戦とはそういうもので、NBAだって同じようにやっているじゃないかという人がいる。しかし日本のそれは、ディフェンスしなくてもシュートは入らない、ボールハンドリングはNBAのような華麗さは見られない。ディフェンスしないダンクを見せるならダンクコンテストだけで十分である。

リーグ戦中でケガなどしたら大変だから「仲良しこよし」になってしまうと言う人もいる。真剣勝負でケガを恐れるようであれば、リーグ戦だって手抜きになってしまうのではないだろうか。そもそもそれでプロフェッショナルといえるのだろうか。テレビ放映を録画したのを1クォーター5分位で見るに耐えなくなり見るのを止めた。

今年は日本で男子ワールドカップが開催される。サッカーの「ドーハの奇跡」以上の結果を出すためには、このような意味不明のオールスター戦を戦っている余裕はないのではないだろうか。それより日本代表候補選手をホワイトとブラックチームに分けて真剣勝負をした方がもっと面白く、有意義なのではないだろうか。

ところで、同じ時期にわが会津若松市「あいづ総合体育館」で県高校新人大会が開催されていた。こちらの試合の方がダミーディフェンスのみのオールスター戦より数倍面白かった(ダミーはだみだ)。バスケットボールの醍醐味はシュートを入れるのはもちろんのこと、一生懸命走る、激しいディフェンス、リバウンド、ルーズボールに身体を張ってとび込む、そしてコンタクトでのシュートフィニッシュ。高校の新人戦は全てが網羅されていた。オールスター戦のなれ合いゲームを見た後だったので、高校生の真剣勝負が一層際立っていた。

男女共決勝リーグのゲームを見ると、アウトサイドシュート(特に3P)の確率が非常に高かったことが印象に残った。3Pシュートの決定力がゲームの流れを支配していたようである。今後ますますシュート力を高める練習が必要になるだろう。シュート練習は個人練習による打ち込みが基本になる。JBAの指針は100本打って7割確率が「Good Shooter」、8割が「Great Shooter」、9割が「スペシャリスト」と言われている。

また、どこのチームにも優れたガードプレイヤーがいて、ディフェンスプレッシャーに負けないドリブルキープ力、ドライブからのアシストパス、シュートフィニッシュ、そしてここぞというときの3P、見事なプレイだった。

今回も会津地区から決勝リーグに1つも残れなかった。会津は無理なのか? 決めつけてはいけない。「鬼滅の刃」は不可能を可能にするが「決めつけの刃」は可能を不可能にする。逆境に陥った時こそ人間もチームも成長する。来年度の県高校大会も会津。「どうする会津」。